

ご意見ご要望

ありがとうございました

平成21年度 市長とのミニ対話集会

市民の皆さまと直接対話し、日頃から感じられている行政への要望、ご意見をいただくことで、市政に反映していくための「市長とのミニ対話集会」を開催してまいりました。21年度において、市内18団体、629人の方々からご参加をいただきました。

今後、きめ細かな市民対話の積み重ねを続け、市民参加によるまちづくりを進めさせていただきます。今回会場でもいただきましたご意見の一部を紹介します。



実施団体 (敬称略)

- 8月23日 泉区(金井)
- 9月13日 農地・水・環境保全向上対策事業 徳和活動組織および北袋集落(赤泊)
- 11月3日 貝塚老人クラブ(金井)
- 11月3日 庭場集落(赤泊)
- 11月25日 三川集落(腰細)(赤泊)
- 11月25日 真野新町集落(真野)
- 1月15日 (社)新潟県介護福祉士会佐渡ブロック
- 1月17日 両津地区公民館野浦分館(両津)
- 1月23日 南新保集落(赤泊)
- 1月23日 中興公民館(金井)

主な内容

- 2月4日 佐渡市消費者協会佐和田支部(佐和田)
- 2月14日 赤泊自治会(赤泊)
- 2月14日 両津地区公民館片野尾分館(両津)
- 2月14日 大和区(金井)
- 2月19日 高千・外海府総代会(相川)
- 2月20日 佐渡市女性団体連絡協議会
- 2月20日 上山田集落(羽茂)
- 2月21日 小倉・長谷自治公民館(畑野)

◎ 地産地消条例はどのようなものですか。

Ⓐ 地元で採れた物を地元で消費することを目的にしています。学校給食などでは、ほとんどが島外からの食材でしたが、米は現在地元のものを使用しています。さらにあらゆる規格の野菜を使用するためには、中間処理の検討も必要であると考えます。地元の食材を地元で食べる努力。ホテルや旅館で地元産を使用すること。学校給食での米粉パンの導入など、地元での消費拡大を進めていきます。

◎ インターシップについて教えてください。地区によっては実施の効果もあるでしょうが、佐渡市として

その先はどのようなのでしょうか。

※インターシップとは…学生が在学中に自らの専攻に関連する企業や官公庁などで、将来の職業選択に生かすため就業体験すること。

Ⓐ 市の現状として、人口の減少による後継者の不足が大きな問題になっています。インターシップを行うことで、将来的に農林水産業の後継者の不足解消や、会社の従業員の確保につなげていきたいと考えています。市ではいくつかの大学と包括連携協定を結びました。佐渡には大学生が多く来ていますが、今までは自由に行動ができましたが、包括連携協定は授業の一環となっています。例えば各地区の商店街では、シャッターが閉まった状態が続いています。この店舗の一部を学生たちに経営してもらい、活性化策の提案をしてもらうことや、佐渡には能舞台が多くありますが、能の研究に集落センターを利用したり、鬼太鼓をテーマとした取組みもありました。交流人口の増加を図り、佐渡の魅力を伝えたい。佐渡の芸能を継続的に残すことにも繋がると考えられます。

